

## 基 調 報 告

# 大会主題 「生きる力を育てる新聞教育」 ～言語活動の充実をキーワードとして～

### 1 新学習指導要領と新聞教育・NIE

平成23年度から小学校で新学習指導要領が完全実施となり、中学校でも平成24年度から完全実施となる。

今回の改訂では、教育を2つの視点から見直しが図られたと考えられる。一つ目は、国際的な視点である。ピサ(PISA)調査やタイムス(TIMSS)調査による国際的な規模での学力調査結果が、グローバルスタンダードとしての重みを増してきていると言える。二つ目は国内からの視点である。教育基本法、学校教育法、同施行規則が改正され、それを受けての改訂であり、21世紀を見通した60年ぶりの大きな教育改革と言える。学校は、教育基本法の新しい理念を教育の目標とし改訂された新学習指導要領をしっかりとらえ実践することが重要であり「知識基盤社会」の時代においてますます重要となる「生きる力」を、新教育課程全体で育成していくことが求められている。

新学習指導要領では、「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和が重視されている。また、学力の重要な要素として ①基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 ③学習意欲 が示されている。

さらに、充実すべき重要事項として、『言語活動の充実』が挙げられる。言語は、知的活動(論理や思考)やコミュニケーション、感性・情緒の基盤であり、国語科において、読み書きなどの基礎的な力を定着させた上で、各教科・領域においても記録・説明・論述といった言語活動を充実させることが求められている。よって、言語活動を各教科等の指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を改善する必要がある。

本研究会では、このようなことから、言語活動の充実をキーワードとしながら、新聞の良さをしっかりと生かせるような実践を今後も積み上げ、新聞教育を進めていきたいと考える。

### 2 言語活動の充実と新聞教育・NIE

これまでの北海道十勝新聞教育研究会での実践をもとに、新聞教育の意義と役割について『言語活動の充実』を中心に考えてみる。

新聞教育には、学習のスタイルとして、①新聞活用学習 ②新聞づくり ③新聞機能学習がある。子どもたちに付けさせたい力をしっかりと押さえ、これらの学習を有機的に関連させることで、より一層の効果が得られるものと考ええる。

(1) 新聞活用学習とは、新聞を教材として授業の中で取り扱うものである。新聞記事を読み、感想や考えを書き、それについて意見交流をする活動や新聞記事を要約し、それぞれの要約を読み比べ、違いや良さを考える活動、編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む活動など様々な活動

がある。学習の機能として、

○与えられた情報を分析し判断する。

○その情報を自分の言葉でまとめ、考えや思いを整理する。

○学習の成果や自分の考え・思いなどを発表し合い、意見交換する。

○違いを認め合ったり、共感し合ったりする中で、視野を広げていく。

などが考えられる。また、最新の情報や身近な情報が掲載されていたりする新聞を教材とすることで、子どもたちの「学習意欲」を促す効果が期待できる。

(2) 新聞づくりとは、子どもたち自らの手で新聞を作成する学習である。活動内容としては、

○新聞づくりに向け、取材や図書館を利用した調べ学習などで必要な情報を集める。

○集めた情報を比較検討しながら、原稿をまとめる。

○仲間と協力し、考えを出し合いながら、新聞を作成する。

○作成した新聞の交流を通して、友だちの頑張りと良さを認めあう。

○作成した新聞を読み、新たな知識を得る。

などが考えられる。また、新聞を読んでくれる人を意識することで、より良い表現方法を見出す活動にもなる。新聞の発表の機会を設けることで、コミュニケーション能力の向上や新聞づくりの意義を確認できる機会にもできるなど幅広い活動が考えられる。

(3) 新聞機能学習とは、新聞社の仕組みや新聞の制作過程を学習することで、新聞の果たす役割や機能などを学ぶものである。これは、情報教育の基盤と言えるもので、情報・通信の役割を学ぶことはもとより、情報リテラシーの育成をも担っている。今日、情報を発信する側の情報倫理・モラルの必要性が指摘され、また、情報の受け手側にも、情報の正確さを見極める力や主体的に判断する力が求められている。情報を分析する力とそれを活用する上での自覚、そして発信することによる責任を総合的にはぐくんでいくために「新聞機能学習」の考え方は大変重要であり、この学習は、新聞以外のさまざまな情報やメディアに対する姿勢を確かなものにしてくれるだろう。

### 3 新聞教育・NIEの意義

「新聞活用学習」「新聞づくり」「新聞機能学習」いずれの学習活動も、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にし『言語活動の充実』を図ることで、基礎的・基本的な知識及び技能を高め、それを活用するさまざまな能力を伸ばせるものと考える。さらに新聞教育は、習得学習から活用学習に、さらに探究学習から習得学習の実践へとつながる学習活動であり、その基盤となる学習意欲を喚起するものである。

また、新聞教育には、考えること、学ぶことを通しての協同作業があり、「ぬくもりのある教育」がある。調和のある人間形成を目指してきた新聞教育の重要性は、今後も一層増していくものと考えられる。

第22回鹿追大会が実り大きな研究大会になることを期待する。